

現代倫理道德研究会（発表要旨）平成 30 年 5 月 23 日

モラルサイエンス学会-The Japanese Society for Moral Science 創設の提案—  
道德科学研究センター-The Research Center for Moral Science の使命として

人間学研究室

歴史研究室

主任研究員 川久保 剛

今回は、モラロジー研究所道德科学研究センターを母体にモラルサイエンス学会を創設するという構想を提案した。

モラルサイエンスとは、人間の精神と社会に関する包括的な学問分野として、18 世紀の英国に誕生し、ナチュラルフィロソフィーと対比されるかたちでモラルフィロソフィーとも称された。

19 世紀には米国のカレッジ教育の中心を占めたが、その後、学問の専門分化が進み、実証研究が全盛になるに従い、人間の生き方や社会のあり方について価値の視点を交えながら統合的に論じるモラルサイエンスは衰退した。

しかし今日ふたたび、事実と価値を統合しながら、人間・社会のありかたについて横断的・全体的に検討しようとする潮流が学問の世界に台頭してきた。桂木隆夫によると、モラルサイエンスもまたその動向の一部として復活しつつある。

モラルサイエンスに関する先駆的な学説の提唱として出発したモラロジー研究所の研究部門である道德科学研究センターは、同じ問題意識を共有する立場から、積極的にこのような新たな学問動向に関わり、さらには先駆者としての研究蓄積をもとに全体をリードする役割を果たすべきではないだろうか。

この様な方向性の提案は、すでに水野治太郎がその著書『「経国済民」の学——日本のモラルサイエンス研究ノート』（2008 年）に示されており、今回はその提案内容をより具体化することを試みた。